



39年目の4.26チェルノブイリデー

泊原発再稼働
新增設反対！



集会後、北海道電力(株)本店までパレードを行いました

今年も大通公園西6丁目広場で「4.26 チェルノブイリデー市民集会」が開催されました。時折冷たい雨が降るなか、約250人の市民が泊原発の再稼働や核ゴミの問題、福島避難者からの報告などに熱心に耳を傾けました。

東京電力福島第一原発事故から13年が経ちましたが、日本は未だ原子力緊急事態宣言下で、一般食品の放射性物質の規制基準値は100Bq/kgのままです。これは原発で発生する放射性のゴミならば、黄色いドラム缶に詰めて厳重管理すると定められた濃度です。私たちは、国家が同じ過ちを繰り返すことを許しません。集会とパレードで熱いメッセージを市民の皆さんに力いっぱい訴えました。
〈原発ゼロ・市民エネルギー委員会 富塚とも子〉

INDEX

委員会活動紹介 消費委員会	3
豊平区における地域福祉づくり 「あったらいいな」をかたちに	4~5

支部の活動を紹介します 生活クラブカフェ/江別支部	6
講演会 かつてこの街に遊郭があった 薄野遊郭、白石遊郭、そしてそれは今に続いている	7



組織活動

全支部による4月の一斉チラシまき等によって、各地域から資料請求や加入の問合せが届いています。5月5日～8月8日に加入した方が3カ月間配送料半額になる『配達料半額キャンペーン』にのりかわせし、ぜひ生活クラブを伝えてください。

各支部でもこの機会を活用して、生産者イベントの実施や展示説明車あみか運行などを企画し、取り組んでいきます。支部のニュースなどでお知らせするので、友人・知人を誘ってぜひ参加してください。「食べる人を増やして、食べる口を増やす」仲間づくりの拡がりにつなげていきますように。

消費委員会

4月12日、消費委員長・運営委員長が米の生産者さんほの会の「温湯消毒」を見学しました。種もみを60℃の湯に浸けて10分間消毒。その後、すぎ洗いを2回したあと水切りし、生産者が各自持ち帰って乾燥させます。薬剤処理する市販品に比べ、本当に手間ひまがかかりますが、使用する農薬を減らせるうえ、環境にもやさしい方法です。

生産コストが依然として高止まりするなか、24年度産の生活クラブ米の価格は生産者の持続可能な生産を保障しうる価格として設定しています。6月の米登録で「一年間とんぼの会のお米を食べます」と約束し、継続して利用していきますように。

石けん運動委員会

「十勝 固形石けん」は、昔ながらの製法である釜炊き鹼化法で作られています。製造から乾燥・熱成を経て、できあがりまでひと月ほどかかりますが、しっとりとした使い心地の石けんを作ることができます。原材料はともシンプル。牛脂・パーム油・苛性ソーダ・水のみで、純石けん成分98%。食器洗いはもちろん、洗濯の部分洗いにも適しています。炭酸塩が配合されていないため、おしゃわね着も洗えます。

幅広く使える固形石けんを暮らしに取り入れて、みんなですべて使っていきますように。



原発ゼロ・市民エネルギー委員会

34年目のチエルノブイリ・福島支援カンパに、今年も多くの協力ありがとうございました。ウクライナ難民支援や、福島の子どもの保養への寄付、ベラルーシで健康被害に苦しむ人々の支援に充てています。

また、生活クラブ連合会の復興支援カンパによる「福島 栃木の組合員の保養活動」も始まっています。放射能を気にすることなく親子でリフレッシュできる保養には毎回、複数の申し込みがあり、今年も3月と5月に2組のご家族を迎えました。引き続き支援の必要性を感じます。今後も、資金を集めるために手づくり品バザーなどを行います。ご協力をお願いします。

4月の理事会から

- 2024年度監査報告書が監事会より提出され、確認しました。
- 2025年度通常総代会当日の運営に関する役割を確認しました。各支部の読み合わせは、5月19日からです。

- まつり実行委員会より、わくわくまつりのサブテーマが「なるほどなっとく生活クラブ」に決定したとの報告がありました。
- 支部大会などで呼びかけたチエルノブイリ・福島支援カンパが59万5857円となり、医療基金へ送金しました。
- 連合会が賛同した「ガザの恒久的な停戦と、パレスチナの和平を求める」NGO共同声明に、生活クラブ北海道の賛同を決定しました。

委員会活動紹介

消費委員会

消費材が大好きな各支部の消費委員長たちと担当の理事が、委員会で情報を共有し意見交換をしながら活動をすすめています。生産者と組合員をつなぐ消費委員会の活動を紹介します。

おおぜいの「食べる口」を増やして、食の未来を守りたい

生活クラブの消費材には、「つくり続け、利用し続けることで社会を良くしよう!」という組合員と生産者の思いが込められています。それぞれの消費材が持つ意義を組合員が正しく理解し、伝えあい、利用し続けることが持続可能な消費と生産につながる「利用結集運動」です。私たち一人ひとりの食べる口は小さいけれど、仲間を増やし、おおぜいの食べる口を増やし、生産者とともにみんなで食の未来を守りましょう。

きちんと知りたい!

原材料や製造工程
流通等の開示 表示法

自給率UP!



NO!

遺伝子組み換え食品
添加物や農薬
化学物質

「どんなところで、どんな人が、どんな思いでつくっているか」伝えたい

■ 産地見学



目合わせ会



委員長研修

委員しか参加できない場に行くと学べるって、楽しい♪



牧場見学

産地見学で知り得たことを、支部のニュースなどで組合員に伝えます

農産地や加工食品の製造現場に赴いて、生産者と思いや課題を共有します

■ 消費材 Step Up 点検



生活クラブ独自の自主基準が守られているかを確認。安全性のレベルアップを図っています

■ 消費材開発



福山醸造(株)と試作を重ね、「白だし」を開発!

消費材をより良くしたい

もっと利用を増やしたい

■ 生産者と組合員の交流の場づくり



田植えツアー



生産者交流会

■ 遺伝子組み換え(GM)作物・食品に対するとりくみ



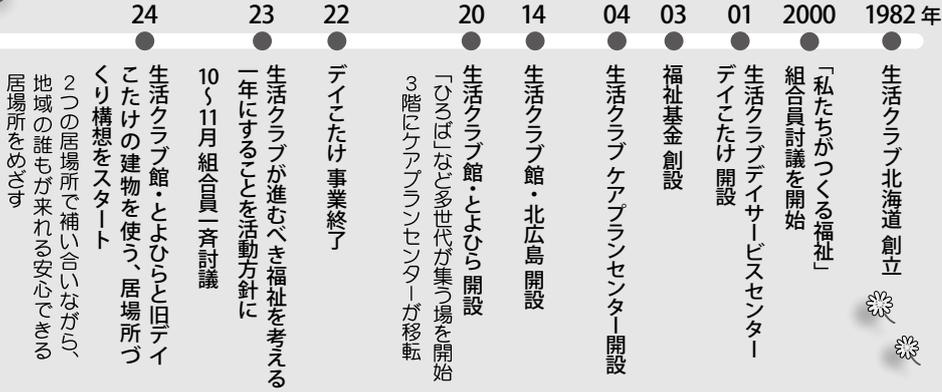
小樽市産業港湾部の方と
自生GMナタネの調査

「あつたらいいな」をかたち

旧デイサービスセンター「デイこたけ」で、みんなの居場所「うたりんご」がスタートしました。これまでの経緯と今後の展望をお伝えします。

〈福祉担当理事会〉

生活クラブ福祉のあゆみ



私たちがめざす福祉のかたちを考え始めた 2023 年

国民の5人に1人が75歳以上の後期高齢者となり社会に深刻な影響を及ぼすとされる2025年問題や社会保障費の増加、高齢者1人を現役世代1.5人が支えるなどと予測される中、どうかたちの福祉があれば誰もが安心して暮らせるのかを考え、話し合いを始めました。

2023年度は「みんなで考えよう！私たちがつくる福祉・たすけあい」をテーマに、介護施設のドキュメンタリー映画上映会や共生のまちづくりをすすめている社会福祉法人を見学しました。これらを通して学んだのは、子育てや介護はする人・される人ではなく平等な立場でのたすけあいだということです。そして、全組合員による一斉討議を経て、組合員が最も望む福祉のかたちは“一人ひとりの居場所”だと認識しました。



社会福祉法人ゆうゆう（当別町）を見学。これから福祉を考えるヒントを得ました（11/1）

居場所づくりをスタートした 2024 年

札幌市豊平区にある「生活クラブ館・とよひら」と「旧デイサービスセンター「デイこたけ」の建物を使い、多世代の居場所づくりを始めました。生活クラブ館の居場所では、ワーカーズ・コレクティブばんこたんが子育てひろばや健康体操などを行い、着実に地域の人たちが集まる場所となってきています。旧「デイこたけ」の居場所では、呼びかけに集まった組合員9人が7月に居場所づくりプロジェクトを立ち上げました（右上写真）。近隣を歩いて地域を知り、人との出会いをつくるため月1回イベントを開催し、10月には“みんなの居場所「うたりんご」”と名づけました。

どちらの居場所も、町内会や地域支援に取り組む団体・個人とのつながりを心掛け、町内会活動に参加したり回覧板で私たちの活動を知らせたりしています。子ども食堂や子ども支援に取り組む方たちとも交流を重ね、少しずつ地域の仲間になっていると感じます。一人ひとりにとっての居場所はどんなところか、どうだったら良いかを動きながら考えた1年でした。



豊平区民に愛されているりんごのように、みんなに親しまれる居場所をめざして名づけました



居場所づくりプロジェクトメンバー



地域の声を受けて、ミニコンサートや親子向けイベントを開催



2025年 地域に根差した居場所づくり

今後も地域に向けたイベントを行いつつも、週1回水曜日に“みんなの居場所「うたりんご」”を開くことにしました。一人で静かに過ごしても、誰かとおしゃべりしてもいい。本を読む、おもちゃやボードゲームで遊ぶ、窓の外をぼーっと見る。自由に安心して過ごせるような場になればと考えています。そこにいるだけでも居場所の役割を担っていると感じてもらえたら、居場所は平等な立場のたすけあい・おたがいさまのたすけあいのしくみになるのだと思います。



初めての「うたりんご」は4月16日に開催。95歳のひとり暮らしの方がチラシを見て来てくれました。



2回目は4月23日。チラシを見たママや「うたりんご」前の公園に来ていた親子が来場し、あそびコーナーは賑やかに



ほっとたいむ伏古から譲り受けた馬のぬいぐるみ♪

みんなの居場所「うたりんご」のこれから

まずは数年かけて、誰もが気軽に足を運べる場をめざし、福祉基金を使って活動をすすめていきます。次に、さまざまな事情で居場所に来れない人や暮らしに手助けが必要な人などに向けて、自宅へ赴き家事・介護支援をするワーカーズを作り、居場所運営とともに担っていきたいと考えています。



「生活クラブ館・とよひら」と「うたりんご」が両輪となり、地域のたすけあいをつくっていくことをめざします



みんなの居場所「うたりんご」

札幌市豊平区月寒東3条4丁目1-17

● 毎週水曜日 10:00 ~ 15:00

問合せ先：生活クラブ本部
福祉活動課

TEL:011-887-8891



詳しくはこちら

生活クラブ館・とよひら

札幌市豊平区月寒東3条4丁目1-3

- ぼんぼんひろば（多世代ひろば）
第1・3木曜 10:00 ~ 12:00
- シンプルエクササイズ
毎週木曜 13:30 ~ 14:30



詳しくはこちら

問合せ先：ワーカーズ・コレクティブ ぼんこたん

TEL:011-799-1214



支部の活動を紹介します

江別 支部

生活クラブカフェ



江別支部では組合員が興味・関心のあることをテーマに、江別市や生活クラブ本部委員会等の出前講座をおこなったり、地域のワーカーズなどと学習会を共催したりして、組合員同士のつながりを広げていきます。今回は、組合員が気軽に集まって語り合える場「生活クラブカフェ」をお伝えします。



水カフェ
1/30 開催

この日のテーマは、「江別市の水について」。千歳市に新設されたラピダス(株)の次世代半導体工場は、新聞やテレビで見聞いたニュースのように取り上げられていますが、有害な化学物質を含む工業廃水を千歳川に流すことが決まっています。

支部でも、江別市民の約 1/3 が千歳川から取水した水道水を利用していることもあり、不安の声があがりました。なかでも、永



組合員同士だからこそ
できる話もあります

14人が参加。いつもより多い参加者数から、関心の高さが伺えました

遠の化学物質と呼ばれるPFASピーファスに関して心配している人が多かったことが、今回の開催へとつながりました。

当日は、昨年開催した学習会や水道局の出前授業を受けたときの話をみんなで共有し、知識を深めあうことができました。参加者からは「フライパンや化粧品、PFASを使った製品を避けることはできるが、水は個人では無理」「安心安全な水を供給できるよう、行政に強く求めていく必要を感じた」などの感想がありました。PFASに関しては、今後も地域の活動の大きなテーマとして取り上げていきますが、生活クラブ全体でも課題として取り組んでほしいと思います。(運営委員 川口 円)

後日、支部共催の環境ジャーナリスト 天笠啓祐さんの講演会に参加し、半導体工場がもたらす環境汚染やその影響についての話を聞きました。「一度化学物質で汚染されると、もう回収はできない」という言葉が心に残りました。ラピダスには、有害物質を含んだ水を排水しないシステムを構築してほしいです。



カフェのおやつは
もちろん消費材♪

今までこんなカフェを開催しました

石けんカフェ



4月28日、今年度初開催!

米カフェ



福祉カフェ



2025年度初めての生活クラブカフェは、「米カフェ」でした。今なぜ、米の不足や価格高騰が起きているのか。流通のしくみやその背景、生活クラブ米について、(株)食創の中谷宗弘さんと本部職員 多田健介さんから学びました。今後も楽しいカフェを開催します。お気軽にどうぞ♪



白米と野菜めしのおにぎりに、
つくしの佃煮♪

歴史は一瞬で逆戻りする

かつてこの街に遊郭があった 薄野遊郭、白石遊郭、そしてそれは今に続いている

ススキノの始まりが遊郭だということは周知の歴史ですが、それを設けたのが政府だったということはご存知ですか。明治4(1871)年、開拓使によって薄野に遊郭はつくられ、大正9(1920)年の白石移転後も昭和32(1957)年まで存在していました。民衆史研究家の石川さんを講師におこなった講演会についてお伝えします。(主催：文化委員会 3/31)



講師の石川圭子さん

足元の歴史から今を問い直す

大河ドラマ「べらぼう」で描かれる吉原遊廓は、大名や金持ちの旦那衆が遊ぶ街であったのに対して、薄野遊廓は札幌の街づくりのために集められた人夫を繋ぎとめ働かせる労務慰安所としてつくられました。が、遊女が借金返済の年季奉公のために拘束された身の上であったことは吉原と同じです。

やがて、妓楼ぎろうの楼主は長者番付に名を連ね、後には議員になる者や実業家として成功を収める者も多数いました。また、遊郭の用心棒として博徒はくともやって来て大きな力を持ち、のちに芸能文化を花開かせていきました。遊郭は札幌の街のインフラ整備に寄与し、巨額の納税をして開拓に大きな役割を果たしたとも言えますが、その陰で人知れず命を落とした遊女たち、人夫たちの記録はほとんどありません。

大正時代、街の発展により都心に近くなってしまった薄野遊廓は、天皇の行幸に伴い白石村(現在の菊水)に移転し、薄野には料理屋や芸者衆が残りました。白石遊廓は、労働者を言葉巧みに遊郭に誘い遊ばせて、それを借金として身柄を拘束し働かせるタコ部屋労働に利用されたとも言われています。

戦後進駐軍の慰安施設としても利用され、1957年の売春禁止法施行まで存在しました。

北海道が近代日本の植民地政策を押し進めるために開拓されたこと、その成功がのちのアジアの国々への植民地政策に活かされていったこと、そこには名もなき犠牲者がたくさん埋もれていることを忘れてはなりません。そして現在の薄野に目を向けると、福祉が取りこぼした貧困や居場所のない若者の受け皿として機能する風俗の街であり、特に若い女性が搾取される仕組みがあります。弱いものが組織的に搾取されている実態は、薄野の陰の歴史が今も続いているといえないでしょうか。

〈文化委員 執事 紀美恵〉



札幌エルプラザにて開催。組合員42人が参加しました



私たち文化委員会は1993年の発足以来、平和を活動の中心に置いています。平和とは戦争がないことだけでなく、誰もが人間らしく生きる社会であることと考え、現在は「ヒロシマ・ナガサキ平和行動」「憲法を学ぶ」「北海道の歴史と平和」の3つを柱に組み立て、実践しています。今回の講演は、北海道の歴史と平和を遊郭から考えようと企画しました。

これまで私たちは、開拓の歴史や炭鉱を通し、先住民であるアイヌ民族、様々な理由で日本各地、朝鮮、中国等から移り住んだ人たちが関わりあって北海道の歴史が

作られてきたことを学んできました。その中で輝かしい開拓の歴史には植民地主義(=社会や経済の発展・近代化を図るために支配と搾取の関係を正当化する考え方)、家父長制(=主に男性が支配的特権的な地位を占める社会システム)という構造的な暴力の側面が大きくあったことに気づかされました。そして、その本質は人権侵害の歴史であると自覚することが、誰かを支配したりされたりしない、平和な社会を私たち自身が作っていくための学びにつながると考えます。知ることにより私たちは想像力をさらに持つことができ、それにより他者をもっと理解できるようになるはずです。(文化委員会担当理事 小松真理)

information

発行 生活クラブ生活協同組合 札幌市厚別区大谷地東一丁目4-15 TEL011(887)8891 FAX011(887)7256
2025年5月20日 編集 広報委員会/W・C・Oプランニング

緊急 牛乳集会 生活クラブ牛乳を飲み続けるために



日時 6月20日(金) 10:00～12:00
場所 札幌エルプラザ 2階環境研修室

内容 牛乳の利用目標は月3万本ですが、現在は25,000本を切っています。このままでは作り続けられず、牛乳が飲めなくなるかもしれません。北海道の生乳生産の現状と生活クラブ牛乳の価値について生産者のサツラク農協から話を聞き、学びます。

ニュース
5月3週

主催 本部消費委員会

あなたの1本で酪農家を応援! も～MORE ミルクアクション



牛乳1本につき1円を積み立てて、生産に必要な資材を酪農家へ届けるしくみです。2024年度の積立金で購入した衛生手袋などを、前田さん、弘中さん、工藤さん、菅浦さんに届けました。(4/22)



2025年度 生活クラブ総代会

日時 6月10日(火) 10:00～12:30
場所 京王プラザホテル札幌 2階エミネンスA
内容 2024年度の事業・活動報告・決算と、2025年度の活動方針・事業計画及び予算について討議し、承認を行います。総代以外の組合員のために傍聴席を設けています。

バイオガス発電と資源の再利用サイクルに取り組む 酪農企業 カーム角山 見学会

日時 6月16日(月) 10:30～11:30
場所 カーム かくやま (株) Kalm 角山 (江別市角山)
内容 持続可能な経営を実践し、牛の糞尿を活用したバイオガス発電や農家・食品工場から回収した大豆かす等を牛の飼育に再利用している様子を見学します。
※定員9人。申し込み多数の場合は抽選

ニュース
5月1週

主催 サステイナブル委員会

わくわくまつり 2025 キャラクターデザイン募集

11月2日(日)
グランドメルキュール
札幌大通公園

まつりを盛り上げる happy で元気なキャラクターを募集します。締切は5月30日。楽しいまつりを一緒に作りましょう!

実行委員会メンバーも
募集中♪



ニュース
5月1週

問合せ: 本部 水戸まで

まつり実行委員会

本ページに記載しているイベント等については、生活クラブニュースを見て、参加申し込みをしてください。

問合せ 生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

<https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/>



ポンコツ、帰省する

中央支部 森山 郁香

私の実家は、かの霊峰富士山を隣県の静岡と礼儀正しく譲り合っていることで有名な山梨である。仕事だとおせび泣く夫を置いて息子と娘と、札幌に越してから3度めの帰省旅だ。

空港の保安検査で十徳ナイフが出て止められる。持った覚えはないのに。私のだけだ。ピアスを落とすし、出たばかりの店に戻る。鯉にやろつとして餌が突風に舞い上がる。着けたピンバッチが弾き飛び、スーパールの陳列台をグルグル。帰る日には鍵を探し回り、息子はスマホを置き忘れて出発。娘に2人揃って冷静に叱られ、感情的に言われるより堪える私。ひと息ついた電車では、窓の景色を見る娘を見て「私も見よう」ととらふらふを開けた途端、長いトンネルに入る...沈黙。

大丈夫か、私よ。チュブのためネタ作りか。だが、妙齢の母も10代の子どもたちも、自分がしっかりせねばという気になったよつで、ポンコツのフリをするのもたまにはいいと思うのであ。

組合員のエッセイを募集します。400字程度。テーマの指定はありません。本部川瀬まで、ファックスか業務便で送ってください。



道産簡伐材を配合した紙を使用しています